

日野町環境基本計画

概要版

環境基本計画とは

本計画は、令和12（2030）年までに取り組むべき環境政策の指針として、町民、環境活動団体、事業者、町（行政）の協働・連携により、豊かな自然環境を良好な状態で次世代に継承し、環境負荷の少ない、幸福な暮らしを町民一人ひとりが実践できる地域社会を実現するための基本的な施策を取りまとめたものです。

計画の目的と位置づけ

第6次日野町総合計画との整合

本町における最上位計画である第6次日野町総合計画をはじめとした関連計画との整合性を図った計画とします。

SDGs、MLGs等の視点

2030年までの国際社会共通の目標として、国連サミットで採択されたSDGs（持続可能な開発目標）に掲げる17のゴールを関連性の高い施策に結びつけて、本町の環境の将来像を町民・事業者・町（行政）が共有しやすい計画とします。

また、滋賀県が令和3（2021）年7月1日（「びわ湖の日」40周年記念日）に策定した、「琵琶湖」を切り口とした2030年の持続可能社会へ向けた目標（13のゴール）であるマザーレイクゴールズとも連携した計画とします。

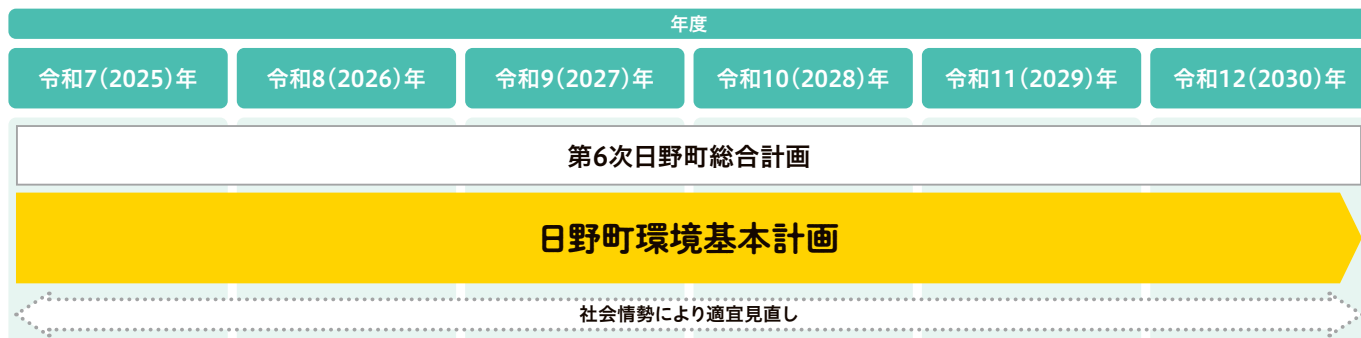
計画の対象

計画で取り組む環境の対象は、『地球環境』、『自然環境』に加えて、SDGsの理念に基づき、経済・社会を含む広義的な意味での『生活環境』とします。

区分	対象
地球環境	地球温暖化、省エネルギー、再生可能エネルギー、気候変動対策 等
自然環境	森林、里山、緑地・農地、河川、生態系、生物多様性 等
生活環境	廃棄物対策、典型7公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、地盤沈下、騒音、振動、悪臭）、歴史・文化、景観、公共交通、産業（事業活動） 等

計画の期間

本計画の期間は、第6次日野町総合計画の計画終期に合わせて、令和7（2025）年度から令和12（2030）年度までの6年間とします。また、計画の策定時に想定されなかった国や県の動向、社会情勢や環境問題の変化等が生じた場合は、必要に応じて適宜見直しを行います。



※本計画は、2030年の国際社会共通の目標であるSDGsや、2050年のカーボンニュートラルの実現やネイチャーポジティブ^{*}の達成など、中長期的な視点も踏まえたものです。

ネイチャーポジティブ…生物多様性の損失を回復軌道にのせること。

日野町が目指す環境の将来像

先人たちから受け継いできた豊かな自然環境は、町にとってのアイデンティティでもあります。綿向山をはじめ、緑に囲まれた豊かな自然景観とそこに息づく歴史文化をいつまでも守り、より良い状態で新たな世代へと継承していくため、2050年を見据えた2030年の町の環境の将来像を次のとおり定め、その実現に向けて取り組みます。

人と自然と社会に笑顔ひろがる “三方よし”のふるさと日野

～進取と共創でつなぐ緑の環のまち～

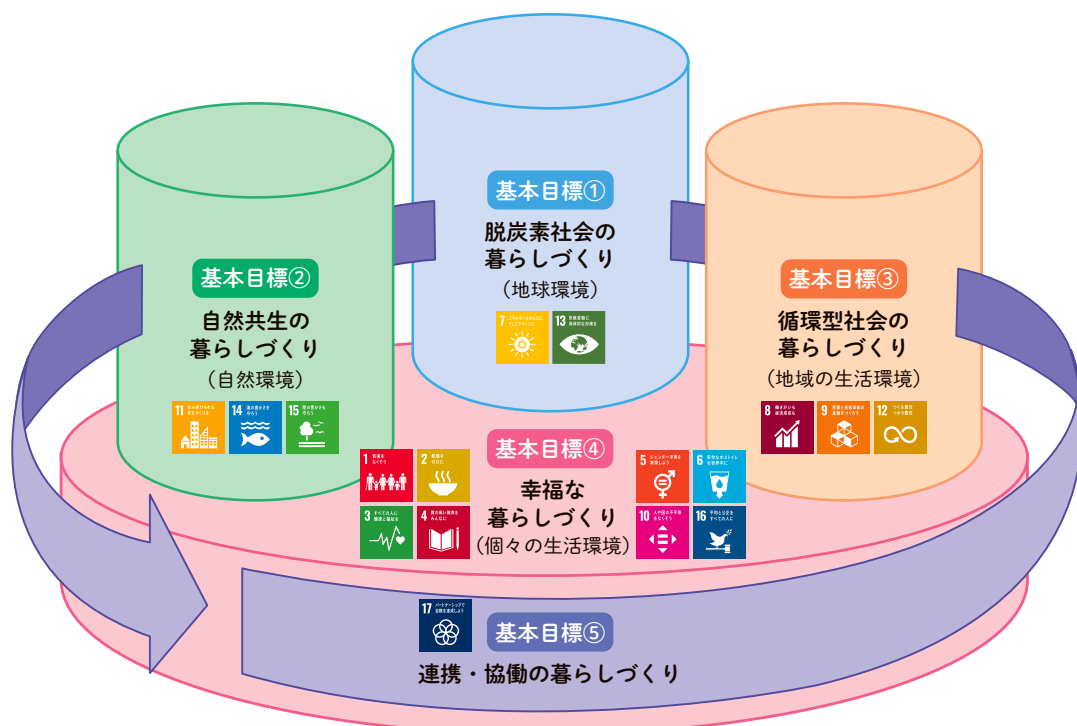
基本目標の体系について

基本目標について

本計画では、環境負荷の少ない、幸福な暮らしを町民一人ひとりが実践できる地域社会を実現するための「暮らしづくり」に主眼を置き、「脱炭素社会」、「自然共生」、「循環型社会」、「幸福（ウェルビーイング）」、「連携・協働」の5つを基本目標として定めます。

基本目標の体系について

『地球環境』、『自然環境』、『生活環境』の3つの環境問題を解決するための取り組みを進めるとともに、これらの環境施策を通じて、地域の経済社会をより良い方向に移行し、地球・地域・一人ひとりのウェルビーイングの達成へとつなげていくことを意識し、各基本目標同士の連携・協働を意識した施策を進めます。



計画の基本目標の体系図

基本目標と基本施策、施策の方向性

基本目標	基本施策	施策の方向性
脱炭素社会の暮らしづくり ～未来のためにコツコツ (CO ₂ ・CO ₂) 減らそう～	1-1 省エネルギーの推進	地球と家計にやさしい省エネルギーの普及 “スマートムーブ（エコで賢い移動）”の推進
	1-2 再生可能エネルギーの推進	再生可能エネルギーの導入と利用
	1-3 地球温暖化による気候変動への適応策の推進	自然災害や健康被害を防止する適応策の普及、促進
自然共生の暮らしづくり ～豊かな水と森を守り、 ともにひびきあおう～	2-1 里山・里地・里川の良い保全と再興	里山・里地の保全と回復 多様な生態系を育む豊かな川づくり
	2-2 生物多様性の保全と回復	生物多様性の見える化と希少生物の適切な保護 外来種対策の推進
	2-3 自然の恵みの活用	自然の恵みを活かした産業の推進
循環型社会の暮らしづくり ～みんなで実践し、 ごみゼロを達成しよう～	3-1 3Rの推進	循環型社会に関する理解の促進 ごみをつくらない暮らしと資源循環リサイクル
	3-2 食品ロスの削減と堆肥化	食品ロスの削減 生ごみや草木の堆肥化
	3-3 廃棄物の適正処理	ごみの正しい分別の徹底 環境美化の推進
幸福な暮らしづくり ～ふるさとで学び、 しあわせを育もう～	4-1 環境人材の育成	環境学習・体験活動の推進
	4-2 自然と共生した快適な生活環境の実現	公害の防止と監視 緑豊かな美しい景観と町並みの保全
	4-3 環境を軸とした持続可能なまちづくり	環境と他分野との連携強化
連携・協働の暮らしづくり ～ひびきあい、つながり あって解決しよう～	5-1 連携・協働の促進	住民参画と地域間・世代間交流、連携の推進

指標

★：各基本目標の成果指標

項目		基準 令和 5（2023）年度	指標 令和 12（2030）年度
脱炭素社会の暮らしづくり	二酸化炭素（CO ₂ ）排出量の削減量（2013 年比）★	10.5%削減	50%削減
	地域公共交通の年間利用者数 ・近江鉄道線日野駅 ・近江鉄道バス日八線 ・日野町営バス・A I オンデマンド交通「チョイソコひの」	320,120 人 203,459 人 79,616 人	328,000 人 230,000 人 93,000 人
	家庭エコ診断の受診件数	—	50 件
	グリーンカーテンの設置数	—	50 箇所
自然共生の暮らしづくり	(町民アンケート) 自然環境が 10 年前に比べて良くなったと回答した人の割合 ★	全体的に良くなった 少しは良くなった (18.1%)	全体的に良くなった 少しは良くなった (23.1%)
	生物調査の参加者数	—	200 人（累計）
	農泊受入人数	870 人	4,500 人
	河川愛護事業参加人数	3,334 人	3,340 人
循環型社会の暮らしづくり	町民 1 人 1 日当たりのごみ排出量 ★（資源ごみを除く）	547g	450g
	ごみのリサイクル率	11.7%	20.0%
	わたむきの里エコドームの資源ごみの回収量	42 トン	50 トン
	生ごみの堆肥化に取り組む世帯数	11 世帯	120 世帯（累計）
	清掃活動の参加人数	289 人	350 人
幸福な暮らしづくり	(町民アンケート) 日野町での暮らしに満足している人の割合 ★	満足・おおむね満足 (64.9%)	満足・おおむね満足 (70.0%)
	環境学習の参加人数	—	300 人（累計）
	町内河川の環境基準（COD、BOD の年平均値）	基準値達成	基準値達成
	大気環境基準（窒素酸化物、硫酸酸化物の日平均濃度）	基準値達成	基準値達成
連携・協働の暮らしづくり	町（行政）・日野町エコライフ推進協議会が実施する環境保全活動への参加者数 ★	289 人	3,000 人（累計）

みんなで取り組むプロジェクト

名称	家庭エコ診断推進プロジェクト（仮称）
概要	環境省が推進する「家庭エコ診断《うちエコ診断》」を各家庭で積極的に受診できるように、各種イベント会場や自治会行事などにおいて「うちエコ診断会」を開催するための支援を行う。
実施主体	町（行政）、滋賀県、滋賀県地球温暖化防止活動推進センター、日野町エコライフ推進協議会、事業者、町民
名称	グリーンカーテンによるエコの輪プロジェクト（仮称）
概要	・脱炭素社会づくりに貢献する取り組みの一環として、公共施設や町内小学校等を中心にグリーンカーテンを設置するとともに、家庭や事業所へのグリーンカーテンの普及を図るための支援を行い、CO₂ ネットゼロに取り組むことへの意識醸成を図る。 ・グリーンカーテンを育てる過程で、ヘチマなどの有効活用（へちまのスポンジづくり）を通じた学習会等を実施し、環境に配慮した行動を促進させるための普及啓発活動を地域と連携して実施する。
実施主体	町（行政）、日野町エコライフ推進協議会、事業者、環境保全団体、町民
名称	生物多様性の価値の見える化プロジェクト（仮称）
概要	・デジタル技術を活用し、町内に生息する動植物等に関して町民参加型の生物調査を実施する。 ・収集した生物の情報を活用しながら、自然の大切さを町民とともに考えていくために、身近な自然や動植物と触れ合う機会を創出するとともに、町内の生物多様性の価値の見える化を行い、新たな地域資源としての保全活用を進める。
実施主体	町（行政）、日野町エコライフ推進協議会、事業者、環境保全団体、町民
名称	三方よし！生ごみ減量・資源化プロジェクト（仮称）
概要	・段ボールコンポストや生ごみの拠点回収など、個人や地域、各種団体などの様々な主体が実施する生ごみの堆肥化の取り組みや普及啓発活動に対する積極的な支援を行い、生ごみの減量やリサイクルにつながる様々な手法を町民が選択できる仕組みづくりを進める。 ・わたむきの里エコドームを拠点とした資源ごみの回収を継続的に実施し、資源ごみを可能な限りリサイクルするための仕組みづくりの検討と拠点回収の利用者の拡大に向けた普及啓発を図る。
実施主体	町（行政）、日野町エコライフ推進協議会、事業者、環境保全団体、町民
名称	地域資源を活かした学び合いプロジェクト（仮称）
概要	・綿向山や日野川をはじめとする町内にある自然資源を環境学習や体験学習の場として活用するための勉強会の開催や環境学習の実施にあたっての支援を行う。 ・地域資源を活かした体験学習を通じて、様々な世代や主体が交流しながら地域の自然環境や地球環境について学び合える機会を創出する。
実施主体	町（行政）、日野町エコライフ推進協議会、事業者、環境保全団体、町民
名称	エコライフ活動推進プロジェクト（仮称）
概要	・町民や各種団体の環境保全活動を一層促進させるために、中核組織である日野町エコライフ推進協議会において、中間支援機能の強化を図るため、事業計画の見直しや若い世代や新たな団体を巻き込んだ新たな体制づくりを進める。 ・日野町エコライフ推進協議会の構成団体や自治会等が実施するごみ減量・リサイクル・水環境保全、地球温暖化防止などのライフスタイルの変革につながる実践活動や意識啓発活動を支援する。
実施主体	町（行政）、日野町エコライフ推進協議会、事業者、環境保全団体、町民

計画の進行管理

推進主体

本計画の推進にあたって、町民、環境活動団体、事業者、町（行政）がそれぞれ主体的に行動するとともに、各主体の強みや特性を最大限発揮できるように、適切に協働・連携を図りながら取り組みを進めます。

推進体制、進捗管理

計画の着実な推進を図るため、町民や環境活動団体等からの意見を踏まえ、日野町環境審議会でPDCAサイクルによる進捗管理を年1回行います。また、進捗状況については、毎年度実施する点検や評価の結果をもとに、日野町エコライフ推進協議会を中心として、広く町民や事業者に目標指標の達成状況の報告を年1回行います。

